

# 専攻教育課程照合表

## 専門看護分野：精神看護

|              | 科目                       | 大学院該当科目                         | その科目の内容                                                                                                                             | 履修<br>単位        | 認定<br>単位 |
|--------------|--------------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------|
| 専攻分野<br>共通科目 | 1. 歴史・法制度に<br>関する科目      | 精神看護学特論Ⅰ                        | 精神保健医療福祉に関する歴史と法制度や体制、日本における動向および当事者の活動の変遷を学び、精神保健看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について学ぶ。                                         | 2               | 2        |
|              | 2. 精神・身体状態の<br>評価に関する科目  | 精神看護学特論Ⅱ                        | 精神・身体状態のアセスメントができる為に、精神保健上の問題のメカニズムを心身医学の捉え方をふまえ理解し診断・治療について学ぶ。                                                                     | 2               | 2        |
|              | 3. 精神科治療技法に<br>関する科目     | 精神看護学特論Ⅲ                        | 精神保健上の問題をもつ対象の回復（リカバリー）を支援するため、対象・家族・集団に対し必要な精神科治療技法について学ぶことができる。また、治療的なかわりについて理解を深め、自己のかわりを振り返る方法を学ぶ。                              | 2               | 2        |
|              |                          | 精神看護学演習Ⅰ                        | 精神保健上の問題を抱えている対象のアセスメントや具体的な看護援助、精神科診断面接、精神科治療技法による介入について、事例検討やフィールドワークを通じて習得する。また、患者－看護師関係をふり返り、精神療法や集団精神療法などの技法を習得する。             | 2               | 2        |
|              | 4. 精神看護理論、援助<br>技法に関する科目 | 精神看護学特論Ⅳ                        | 精神保健上の問題をもつ対象の回復(リカバリー)を支援するために、必要な理論と技法を習得する。また、精神看護の専門看護師として必要な役割や機能について学ぶ。                                                       | 2               | 2        |
|              |                          | 精神看護学演習Ⅱ                        | 精神看護専門看護師として必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネート、教育、研究についてその理論を学び、事例検討を通して実践能力を養う。                                                 | 2               | 2        |
| 専攻分野<br>専門科目 | 1. リエゾン精神看護              | 精神看護学特論Ⅴ                        | 心身医学・看護の立場をふまえた上で、リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学ぶ。                                                                      | 2               | 2        |
| 実習科目         | 実習                       | (10 単位)<br>精神看護学実習<br>・精神看護学実習Ⅰ | 精神看護学実習Ⅰ<br>(CNS 役割実習 2 単位)<br>精神専門看護師の役割である、実践、教育、相談、調整、コンサルテーション、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを学ぶ。                                 | 2               | 2        |
|              |                          | ・精神看護学実習Ⅱ                       | 精神看護学実習Ⅱ<br>(精神科診断・治療実習 2 単位)<br>精神看護専門看護師として精神科診断や治療に関する判断能力および看護援助へのアセスメントを、実際に臨床の場でどのように実践されているかを学ぶ。                             | 2               | 2        |
|              |                          | ・精神看護学実習Ⅲ                       | 精神看護学実習Ⅲ<br>(上級看護実践実習 6 単位)<br>精神看護領域とリエゾン精神看護分野について、医療施設における直接ケアおよび間接ケアを行い、精神専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。上記については、それぞれ実習終了時に単位を認定する。 | 6               | 6        |
|              |                          |                                 |                                                                                                                                     | 認定合計単位<br>24 単位 |          |

# 精神看護学特論Ⅰ

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 浅沼奈美（本学精神看護学 教授）

## 1. 教育目的

精神保健医療福祉に関する歴史と法制度や体制、国際的な動向、日本における動向および当事者の活動の変遷を学び、精神保健看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について学ぶ。

## 2. 教育目標

- 1) 日本の精神保健医療福祉に関する法制度や体制と歴史的な変遷について理解を深める。
- 2) 精神障害者が社会復帰するための制度と社会資源の活用方法を習得する。
- 3) 精神保健看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について討議することができる。

## 3. 教育内容

- ① 精神保健医療福祉の歴史的変遷（世界における古代・中世・近代 精神医療）
- ② 精神障害者の人権擁護とスティグマ
- ③ わが国における精神保健医療福祉の法制度の変遷Ⅰ
- ④ わが国における精神保健医療福祉の法制度の変遷Ⅱ
- ⑤ 精神保健医療福祉に関する国際動向
- ⑥ 精神障害者の職業リハビリテーションと法制度
- ⑦ 精神障害者の地域生活支援制度Ⅰ（地域移行支援）
- ⑧ 精神障害者の地域生活制度Ⅱ（ケアマネージメントと福祉施設・司法精神保健福祉）
- ⑨ 精神障害者の地域生活制度Ⅲ（精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム）
- ⑩ 精神障害者の地域生活制度Ⅳ（精神科訪問看護）
- ⑪ 精神障害者の地域生活制度Ⅴ（ひきこもりの地域支援）
- ⑫ 学校精神保健に関する法制度
- ⑬ 産業精神保健に関する法制度
- ⑭ セルフヘルプ・グループとピアカウンセリング・WRAP（元気回復行動プラン）・当事者研究
- ⑮ 当事者活動と専門職の支援

## 4. 教育の進め方

教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどを基に、他の学生との討議を通して理解を深める。

(1) 講義：⑥⑦⑧⑩⑪⑫

(2) プレゼンテーション：①②③④⑤⑨⑬⑭⑮

<使用媒体>⑪ビデオ「斎藤環監修 引きこもり脱出マニュアルシリーズ 第3講 精神症状と引きこもり」

⑭ビデオ「森田療法ビデオ全集 第3巻 生活の発見会 セルフヘルプ・グループでの回復」

⑭DVD「WRWP その魂にふれる」

⑭DVD「見る当事者研究 case1 水飲みがとまらない！」

## 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

## 精神看護学特論Ⅱ

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 浅沼奈美（本学精神看護学 教授）

### 1. 教育目的

精神・身体状態のアセスメントができるために、精神保健上の問題のメカニズムを心身医学の捉え方をふまえ理解し診断・治療について学ぶ。

具体的には、精神分析理論・精神病態治療論および心理測定法や治療的な介入を行うための理論的基盤を養う。それらを基に、精神看護の視点から対象のアセスメントを深め看護援助について学ぶ。

### 2. 教育目標

- 1) 精神分析理論・精神病態治療論および心理測定法や治療的な介入を行うための理論的基盤をもとに、対象の全体像を捉え、対象の精神保健上の様々な問題について理解を深め説明することができる。
- 2) 精神疾患患者の看護援助の方法について理解できる。

### 3. 教育内容

- ① 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅰ(Bio - Psycho - Social モデル・セルフケアモデル)
- ② 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅱ精神力動論①（自我の構造と機能・不安と防衛機制）
- ③ 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅲ精神力動論②（フロイトの考え方の成り立ち～発達段階）
- ④ 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅳ心理・社会的発達に関する理論
- ⑤ 精神科に用いる治療と検査Ⅰ 精神科薬物療法におけるアセスメントと共同意思決定（SDM）
- ⑥ 精神科に用いる治療と検査ⅡSPECT・ECT・EEG ・心理検査及び様々な尺度など
- ⑦ 精神疾患の診断と薬物療法（不安障害・適応障害・パーソナリティ障害）
- ⑧ 精神疾患の診断と薬物療法（気分障害・統合失調症・発達障害）
- ⑨ 精神疾患の診断と薬物療法（症状性精神障害：せん妄・心身症）
- ⑩ 精神状態のアセスメントに必要な技法
- ⑪ 精神疾患患者の急性期におけるアセスメントと看護援助
- ⑫ 精神疾患患者の慢性期におけるアセスメントと看護援助
- ⑬ 依存症精神障害患者・処遇困難患者のアセスメントと看護援助
- ⑭ 自殺リスクのある患者および災害時の精神保健医療の安全管理と看護援助（災害時の初期対応・治療継続・災害派遣精神医療チーム（DPAT））
- ⑮ 精神の健康の保持増進及び病気の予防におけるアセスメントと看護援助（子どもと女性のメンタルヘルス）

### 4. 教育の進め方

教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどを基に、他の学生との討議を通して理解を深める。

(1) 講義：⑤⑥⑩⑪⑫⑬⑭

(2) プレゼンテーション：①②③④⑦⑧⑨⑮

### 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

# 精神看護学特論Ⅲ

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 浅沼奈美（本学精神看護学 教授）

## 1. 教育目的

精神看護の専門看護師として精神保健上の問題をもつ対象の回復（リカバリ）を支援するため、対象・家族・集団に対し必要な精神科治療技法について学ぶことができる。また、精神看護の専門看護師としての治療的なかわりについて理解を深めることができるとともに、自己のかかわりを振り返る方法を学ぶ。

## 2. 教育目標

- 1) 精神保健上の問題をもつ対象に適切な看護援助を提供するために精神療法的治療技法について理解する。
- 2) 精神看護の専門家として求められる治療的なかわりについて討議することができる。
- 3) 自己理解を深めるためにプロセスレコードやロールプレイについて学び、自己の看護場面について討議し理解を深める。

## 3. 教育内容

- ① サイコセラピューティックな看護
- ② 精神看護技術Ⅰ コミュニケーション論
- ③ 精神看護技術Ⅱ 面接技法－受理面接
- ④ 精神看護技術Ⅲ 精神療法①
- ⑤ 精神看護技術Ⅳ 精神療法②
- ⑥ 精神看護技術Ⅴ 精神療法③
- ⑦ 精神看護技術Ⅵ 精神科薬物療法と看護アセスメント
- ⑧ 精神看護技術Ⅶ 精神科薬物療法における服薬支援
- ⑨ 精神看護技術Ⅷ 認知行動療法
- ⑩ 精神看護技術Ⅸ グループワーク技法①
- ⑪ 精神看護技術Ⅹ グループワーク技法②
- ⑫ 精神看護技術Ⅺ SST・家族心理教育・オープンダイアログ
- ⑬ 精神看護技術Ⅻ プロセスレコード・ロールプレイ
- ⑭ 精神看護技術 13 事例検討とグループスーパーヴィジョン
- ⑮ 精神看護技術 14 リラクゼーションの理論と方法

## 4. 教育の進め方

教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどを基に、他の学生との討議を通して理解を深める。

- (1) 講義：⑦⑧⑨⑩⑬⑭⑮
- (2) プレゼンテーション：①②③④⑤⑥⑫
- (3) グループワーク：⑪⑭

＜使用媒体＞⑥DVD「Beck & Beck の認知行動療法ライブセッション」

⑩DVD「監修：畠瀬稔 出会いへの道－あるエンカウンター・グループの記録」

⑪箱庭(グループによる共同制作)

⑫DVD「アクションメソッドを用いたグループ支援 SST」

⑮DVD「看護ケアに役立つ リラクゼーション法」

## 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

## 精神看護学特論Ⅳ

2単位：30時間（秋学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

### 1. 教育目的

精神看護の専門看護師として精神保健上の問題をもつ対象の回復(リカバリ)を支援するために、必要な理論と技法を習得する。また、精神看護の専門看護師として必要な役割や機能について学ぶ。

### 2. 教育目標

- 1) 精神保健上の問題をもつ対象に、適切な看護援助を提供するために必要な理論を理解する。
- 2) 精神看護の専門看護師として必要な役割と機能について理解する。

### 3. 教育内容

- ① 対人関係論（ペプロウ）
- ② 対象関係論（クライン）
- ③ ストレス・コーピング論（セリエ、ラザロス） ストレスー対処理論（リバーマン）
- ④ 家族システム論
- ⑤ セルフケア論（オレム・アンダーウッド理論）
- ⑥ レジリエンス・ストレングス・回復（リカバリ）・エンパワメント
- ⑦ ハームリダクション・トラウマインフォームドケア
- ⑧ 精神疾患患者のセルフケアと自立に向けた退院支援Ⅰ
- ⑨ 精神疾患患者の家族に対する支援
- ⑩ 精神科領域におけるチーム医療の展開ー多職種とのチームアプローチ・共同意思決定(SDM)
- ⑪ 精神看護倫理
- ⑫ 精神看護専門看護師の役割と機能Ⅰ：コンサルテーション
- ⑬ 精神看護専門看護師の役割と機能Ⅱ：倫理調整
- ⑭ 精神看護専門看護師の役割と機能Ⅲ：コーディネーション
- ⑮ 精神看護専門看護師の役割と機能Ⅳ：教育・研究（看護管理と継続教育・研究活動の方向性）

### 4. 教育の進め方

教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどを基に、他の学生との討議を通して理解を深める。

(1) 講義：⑧⑩⑫⑬⑭⑮

(2) プレゼンテーション：①②③④⑤⑥⑦⑨⑪

＜使用する媒体＞⑤ビデオ「看護技術学習支援 精神看護学 Vol. 3 ～セルフケアの拡大に関する技術～」

監修責任 野嶋佐由美 日本看護協会

⑥DVD「君が僕の息子について教えてくれたこと」東田直樹・ディヴィッド・ミッチェル

### 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

# 精神看護学特論Ⅴ

2単位：30時間（秋学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

## 1. 教育目的

心身医学・看護の立場をふまえた上で、リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学ぶ。より実践的な探求を行う。

## 2. 教育目標

リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学び、実践に生かすことが出来る。

## 3. 教育内容

- ① リエゾン精神看護Ⅰ（理論と実際）
- ② リエゾン精神看護Ⅱ（活動と実際）
- ③ リエゾン精神看護Ⅲ（活動と実際）
- ④ トラウマケアー心的外傷Ⅰ
- ⑤ トラウマケアー心的外傷Ⅱ
- ⑥ サイコオンコロジーⅠ
- ⑦ サイコオンコロジーⅡ
- ⑧ サイコオンコロジーⅢ
- ⑨ サイコオンコロジーⅣ
- ⑩ せん妄の症状マネジメント
- ⑪ うつ病の症状マネジメント
- ⑫ 救命救急センターにおけるコンサルテーション
- ⑬ CNS活動の実際Ⅰ－総合病院におけるCNSの役割の現状と課題
- ⑭ CNS活動の実際Ⅱ－総合病院におけるCNSの役割の現状と課題
- ⑮ CNS活動の実際Ⅲ－総合病院におけるCNSの役割の現状と課題

## 4. 教育の進め方

教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどを基に、他の学生との討議を通して理解を深める。

(1) 講義：②③④⑧⑨⑫⑬⑭⑮

(2) プレゼンテーション：①⑤⑥⑦⑩⑪

＜使用する媒体＞④DVD「グリーフケア第4巻 様々なグリーフを抱えて その2-悲嘆と向き合う人たち」

## 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

# 精神看護学演習 I

2単位：60時間（秋学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

## 1. 教育目的

精神看護の専門看護師として、精神保健上の問題を抱えている対象のアセスメントや具体的な看護援助、精神科治療技法による介入について、グループワークとフィールドワークを通し習得する。

また、精神看護の専門看護師として患者－看護師間におこることに関して、自己のかかわりを振り返ることができるとともに、事例検討を一つのグループ体験として、グループダイナミクスやグループのかかわり方などを習得する。

## 2. 教育目標

- 1) 精神分析理論・精神病態治療論および心理測定法や治療的な介入を行うための理論的基盤を基に、精神看護の視点から対象をアセスメントし、看護援助を立案することができる。
- 2) 精神科治療技法による看護援助を立案し、実践することができる。
- 3) フィールドワークを行うことで、看護援助の特徴と課題を検討する。
- 4) 自己理解を深めるために、プロセスレコードやロールプレイを活用し検討することができる。
- 5) グループによるスーパービジョン、コンサルテーションの実際を体験し理解を深めるとともに、グループダイナミクスの理解を深める。

## 3. 教育内容

- ①②③ 精神看護技術による看護援助Ⅰ－受理面接－外来における問診および診断・処方に関するアセスメント
- ④⑤⑥ 精神看護技術による看護援助Ⅱ－受理面接－外来における問診および診断・処方に関するアセスメント
- ⑦⑧⑨ 精神看護技術による看護援助Ⅲ－認知行動療法
- ⑩⑪⑫ 精神看護技術による看護援助Ⅳ－グループアプローチ①－グループ体験
- ⑬⑭⑮ 精神看護技術による看護援助Ⅴ－グループアプローチ②－患者グループへの援助者として
- ⑯⑰⑱ 精神看護技術による看護援助Ⅵ－心理教育・SST
- ⑲⑳㉑ 精神看護技術による看護援助Ⅶ－地域包括ケアシステム
- ㉒㉓㉔ 精神看護技術による看護援助Ⅷ－リラクゼーション
- ㉕㉖㉗ 精神看護技術による看護援助Ⅸ－プロセスレコードによる自己理解
- ㉘㉙㉚ 精神看護技術による看護援助Ⅹ－ロールプレイによる自己理解

## 4. 教育の進め方

学生の主体的な参加による事例検討などのグループワークとフィールドワークを基に、他の学生との討議を通して理解を深める。また、フィールドワークに関しては、個別の振り返りも行う。尚、フィールドワークの進め方の詳細については個別に相談する。

(1) 講義：①④⑦⑩⑬⑯⑲⑳㉕㉘

(2) 演習：グループワーク：②③⑤⑥⑧⑨⑪⑫⑰⑱㉓㉔㉖㉗㉙㉚

フィールドワーク：⑬⑭⑮地域家族会

㉑㉒地域包括ケアシステム会議・地域ひきこもり支援ネットワーク会議

<使用する媒体>⑯DVD「心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキット・グループワークの実際」特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構（コンボ）

5. 成績評価方法 プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

## 精神看護学演習Ⅱ

2単位：60時間（秋学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

### 1. 教育目的

精神看護の専門看護師として必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究についてその理論を学び、事例検討を通して実践能力を養う。

### 2. 教育目標

- 1) 精神看護の専門看護師として必要な機能と役割について説明できる。
- 2) コンサルテーションが必要な事例について、援助計画が立案できる。
- 3) 精神保健上の問題を抱えた対象およびその家族に必要な倫理調整のための援助計画が立案できる。
- 4) 臨床スタッフへの教育活動として必要な援助計画が立案できる。
- 5) 家族支援のための援助計画が立案できる。
- 6) 精神看護の専門看護師としての研究活動を学び、研究の動向、今後の方向性について討議する。
- 7) 精神看護の専門看護師としての今後の展望および課題を討議する。

### 3. 教育内容

- ①②③ コンサルテーションⅠ－ケース中心のコンサルテーション
- ④⑤⑥ コンサルテーションⅡ－コンサルティ中心のコンサルテーション
- ⑦⑧⑨ コンサルテーションⅢ－プログラム中心のコンサルテーション
- ⑩⑪⑫ コンサルテーションⅣ－コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション
- ⑬⑭⑮ 倫理調整Ⅰ－患者に関する事例の援助計画
- ⑯⑰⑱ 倫理調整Ⅱ－患者・家族関係に関する事例の援助計画
- ⑲⑳㉑ 倫理調整Ⅲ－臨床倫理に関する事例の援助計画
- ㉒㉓㉔ コーディネーション－他職種とのコーディネーションに関する事例の援助計画
- ㉕㉖㉗ 教育に関する事例の援助計画および研究活動
- ㉘㉙㉚ 臨床スタッフのメンタルヘルスの援助計画

### 4. 教育の進め方

教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーション・事例検討を基に、参加者でのディスカッションを通して理解を深める。

- (1) 講義：①④⑦⑩⑬⑯⑲⑲⑲⑲
- (2) 演習：グループワーク（事例検討）：②③⑤⑥⑧⑨⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚

### 5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

## 精神看護学実習

10単位：450時間（春・秋学期）

実習Ⅰ（2単位）、実習Ⅱ（2単位）、実習Ⅲ（6単位）

科目責任者 浅沼 奈美（本学教授）

1. 教育目的:精神看護領域において、精神看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度のアセスメント能力と、専門看護師に必要とされる卓越した実践、教育、相談、調整、研究が自律的に実践できる能力を修得する。
2. 教育目標：1)精神看護専門看護師の役割を理解し、卓越した実践、教育、相談、調整、研究ができる。  
2)精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象とその家族、看護に携わっているスタッフに対し精神看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと看護実践ができる。  
3)精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら問題解決をはかることができる。

### 3. 実習目標と内容

| 実習目標                                                      | 実習内容                                                                        |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1. 実践<br>精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族に対する卓越した看護実践を行う。 | 複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成し、質の高い卓越した看護の実践を行う。           |
| 2. 教育<br>看護職者に対するケアの質の向上のための教育機能を果たす。                     | 他の看護職者への教育を講義・演習で培った知識や技術をもとに、指導者と共に実践する。                                   |
| 3. 相談<br>看護職者和其他のケア提供者に対するコンサルテーションを実践する。                 | 複雑で困難な実践状況において、看護職者や他のケア提供者に対し、精神看護の専門的立場での相談や意見の提供を指導者と共に実践し、問題への対処、解決を図る。 |
| 4. 調整<br>円滑なケア提供のためのコーディネーションを実践する。                       | 複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整を図る。                           |
| 5. 研究<br>専門的知識・技術の向上や開発を図るため研究活動に取り組む。                    | 精神看護分野において、研究的取り組みを必要とする課題を見出し、問題解決やケアの質的向上に向けた研究活動を実践する。                   |
| 6. 倫理<br>倫理的な葛藤や問題が生じた場合、解決への取り組みを図る。                     | 精神看護分野における倫理的課題に対し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のための様々な検討を行い調整を図る。                |

#### 精神看護学実習Ⅰ（2単位）：[CNS 役割実習]

精神看護専門看護師の役割である、実践、教育、相談、調整、コンサルテーション、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら学ぶ。

#### 精神看護学実習Ⅱ（2単位）：[医療施設における精神科診断・治療実習]

精神看護専門看護師として精神科診断や治療に関する判断能力および看護援助へのアセスメントを、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、精神科医や精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら学ぶ。

#### 精神看護学実習Ⅲ（6単位）：[上級看護実践実習]

医療施設における直接ケアおよび間接ケアを精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら学び、精神看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得する。

4. 教育の進め方：1)実習は精神看護学実習Ⅰ[CNS 役割実習]、精神看護学実習Ⅱ[医療施設における精神科診断・治療実習]、精神看護学実習Ⅲ[上級看護実践実習](精神看護領域、リエゾン精神看護分野)とし実施する。  
2)実習場において実習担当教員の指導と精神看護専門看護師を始めとする各施設の実習指導担当者の指導を受けながら実習を進める。  
3)専門看護師の役割(実践、教育、相談、調整、コンサルテーション)について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画を作成し、修正しながら実行する。  
4)専門看護師の役割(実践、教育、相談、調整、コンサルテーション)について実習した内容を事例に基づきレポートする。
5. 実習施設：杏林大学医学部付属病院、東京武蔵野病院、聖路加国際病院、井之頭病院にて実施する。
6. 成績評価方法：最終提出レポート(100%)にて評価する。